

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-65832

(P2004-65832A)

(43) 公開日 平成16年3月4日(2004.3.4)

(51) Int.Cl.⁷

A61B 1/04

F I

A61B 1/04 372

テーマコード (参考)

4C061

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2002-232812 (P2002-232812)

(22) 出願日 平成14年8月9日 (2002.8.9)

(71) 出願人 000000527

ペンタックス株式会社

東京都板橋区前野町2丁目36番9号

(74) 代理人 100083286

弁理士 三浦 邦夫

(72) 発明者 日比 春彦

東京都板橋区前野町2丁目36番9号 旭

光学工業株式会社内

(72) 発明者 古谷 勝彦

東京都板橋区前野町2丁目36番9号 旭

光学工業株式会社内

(72) 発明者 飯田 充

東京都板橋区前野町2丁目36番9号 旭

光学工業株式会社内

最終頁に続く

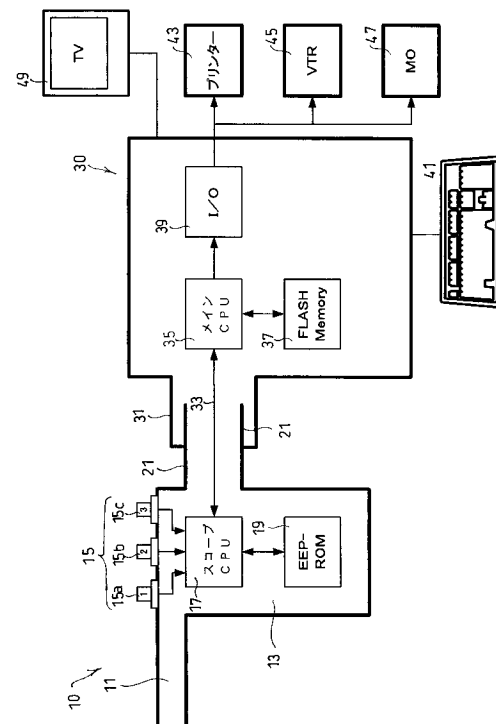
(54) 【発明の名称】 電子内視鏡装置

(57) 【要約】

【目的】 操作ボタンに所望の機能を割り当てることが可能で、割り当てた機能を記憶し、簡単に呼び出せる電子内視鏡を提供する。

【構成】 可撓性の挿入管11を備えたスコープ部10と、該スコープ部10と着脱可能に接続されるプロセッサ部30を備え、該可撓性の挿入管11の体内挿入部とは反対側の端部に備えられた操作部13に複数の操作ボタン15a、15b、15cを備えた電子内視鏡装置であって、各操作ボタン15a、15b、15cの操作によって動作制御される機能を記憶するEEPROM19を備える。各操作ボタン15a、15b、15cによって動作制御される機能は、キーボード41入力を受けてメインCPU35が変更する。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

可撓性の挿入管を備えたスコープ部と、該スコープ部と着脱可能に接続されるプロセッサ部を備え、該可撓性の挿入管の体内挿入部とは反対側の端部に接続された操作部に複数の操作手段を備えた電子内視鏡装置であって、

前記各操作手段の操作によって動作制御される機能を記憶する記憶手段と、
該記憶手段に記憶する前記各操作手段の操作によって動作制御される機能を変更する変更手段と、を備えたことを特徴とする電子内視鏡装置。

【請求項 2】

前記操作部と前記プロセッサ部とがケーブルを介して着脱可能に接続される請求項 1 記載の電子内視鏡装置。 10

【請求項 3】

前記スコープ部は、前記各操作手段の操作によって動作制御される機能を記憶するスコープ記憶手段と、該スコープ記憶手段が記憶した各操作手段の操作によって動作制御される機能を前記プロセッサ部に出力するとともに、操作を受けた前記操作手段に関するデータを前記プロセッサ部に出力するスコープ制御手段とを備え、前記プロセッサ部は、前記スコープ部から出力された各操作手段の操作によって動作制御される機能を記憶するプロセッサ記憶手段と、該記憶した操作手段の操作によって動作制御される機能と前記スコープ部から出力された、前記操作を受けた前記操作手段に関するデータに対応する、前記プロセッサ記憶手段に記憶した機能に基づいて作動する制御手段を備えた請求項 1 または 2 記載の電子内視鏡装置。 20

【請求項 4】

前記プロセッサ部には外部操作可能な入力手段が接続され、前記プロセッサ部の制御手段は、電子内視鏡装置全体を制御する機能と、前記入力手段の入力を受けて前記各操作ボタンに割り当てる機能を変更 / 選択する機能と、該変更 / 選択された機能を前記プロセッサ制御手段に転送する機能を有する請求項 2 または 3 記載の電子内視鏡装置。

【請求項 5】

前記スコープ部は、該スコープ部を識別するスコープ識別情報を記憶する記憶手段を有し、前記プロセッサ部は、前記記憶手段を備え、該記憶手段に、該スコープ部が接続されたときに前記記憶手段から前記スコープ識別情報を入力して該スコープ識別情報に対応するスコープ部について各操作手段の操作によって動作制御される機能を記憶する請求項 1 または 2 記載の電子内視鏡装置。 30

【発明の詳細な説明】**【0001】****【発明の技術分野】**

本発明は、電子内視鏡の操作部の操作ボタンの機能を切替えることができる電子内視鏡装置に関する。

【0002】**【従来技術およびその問題点】**

近年の電子内視鏡装置では、スコープの先端部において作用する複数の機能を操作するための操作ボタンが、スコープの操作部に設けられている。使用者は、操作部を片手または両手で把持した状態で、さらに把持した手の指で操作ボタンを押圧操作しながら診断、治療等を施している。 40

ここで、操作部の持ち方は使用者によって相違し、操作ボタンに割り当てられる機能も、使用者によって異なるものが求められていた。

【0003】**【発明の目的】**

本発明は、かかる電子内視鏡装置に対する要望に基づいてなされたもので、操作ボタンに所望の機能を割り当てることが可能な電子内視鏡装置を提供することを目的とする。さらに本発明は、割り当てた機能を記憶し、簡単に呼び出せる電子内視鏡を提供することを目 50

的とする。

【 0 0 0 4 】

【 発 明 の 概 要 】

この目的を達成する本発明は、可撓性のスコープを備えたスコープ部と、該スコープ部と着脱可能に接続されるプロセッサ部を備え、該可撓性のスコープの体内挿入部とは反対側の端部に備えられた操作部に複数の操作手段を備えた電子内視鏡装置であって、前記各操作手段の操作によって動作制御される機能を記憶する記憶手段と、該記憶手段に記憶する前記各操作手段の操作によって動作制御される機能を変更する変更手段とを備えたことに特徴を有する。

前記操作部と前記プロセッサ部とをケーブルを介して着脱可能に接続する構成が使い勝手
がよい。 10

前記スコープ部は、前記各操作手段の操作によって動作制御される機能を記憶するスコープ記憶手段と、該スコープ記憶手段が記憶した各操作手段の操作によって動作制御される機能を前記プロセッサ部に出力するとともに、操作を受けた前記操作手段に関するデータを前記プロセッサ部に出力するスコープ制御手段とを備え、前記プロセッサ部は、前記スコープ部から出力された各操作手段の操作によって動作制御される機能を記憶するプロセッサ記憶手段と、該記憶した操作手段の操作によって動作制御される機能と前記スコープ部から出力された、前記操作を受けた前記操作手段に関するデータに対応する、前記プロセッサ記憶手段に記憶した機能に基づいて作動する制御手段を備えることができる。

本発明の実施形態では、前記プロセッサ部に外部操作可能な入力手段を接続し、前記プロ
セッサ部の制御手段には、電子内視鏡装置全体を制御する機能と、前記入力手段の入力を
受けて前記各操作ボタンに割り当てる機能を変更／選択する機能と、該変更／選択された
機能を前記プロセッサ制御手段に転送する機能を備える。 20

さらに本発明の他の実施形態では、前記スコープ部は、該スコープ部を識別するスコープ識別情報を記憶する記憶手段を有し、前記プロセッサ部は、前記記憶手段を備え、該記憶手段に、該スコープ部が接続されたときに前記記憶手段から前記スコープ識別情報を入力して該スコープ識別情報に対応するスコープ部について各操作手段の操作によって動作制御される機能を記憶する。

【 0 0 0 5 】

【 発 明 の 実 施 の 形 態 】

以下図面に基づいて本発明を説明する。図 1 は、本発明を適用した電子内視鏡装置を含む電子内視鏡システムの主要構成をブロックで示した図である。この電子内視鏡システムは、先端部に CCD カメラヘッド（撮像手段）等を内蔵した可撓性の挿入管 11 を備えたスコープ部 10 と、CCD カメラヘッドが撮像した画像信号を処理し、またシステム全体を制御するメイン CPU 35 を内蔵したプロセッサ部 30 と、プロセッサ部 30 に接続された、入力装置としてのキーボード 41、画像出力装置としてのプリンタ 43、映像（動画）記録装置としてのビデオテープレコーダ（VTR）45、映像データ（JPEG ファイルによる静止画データや、MPEG ファイルによる動画データなど）を含む各種データの記憶装置（例えば、いわゆる医用画像ファイル装置）の光磁気ディスクドライブ（MO ドライブ）47、およびモニタ装置としてのテレビモニタ 49 を備えている。CCD カメラ
ヘッドが撮像した映像データは、ビデオ信号（動画信号）としてビデオテープレコーダ 4
5 により記録され、テレビモニタ 49 に映し出され、静止画像データが光磁気ディスクド
ライブ 47 に記録される。なお、これらのシステム構成は一例であり、図示しないが、挿
入管 11 の先端から体腔内を照明する光源、体腔内に空気、水等を送排出するポンプ等を
備える。 40

【 0 0 0 6 】

スコープ 10 は、体腔内に挿入される可撓性の挿入管 11 と、体腔内に挿入されない挿入管 11 の体外端部に接続された操作部 13 と、操作部 13 とプロセッサ部 30 とを接続する可撓性のケーブル 21 を備えている。詳細は図示しないが、挿入管 11 の体内挿入部には、先端面に、鉗子口、気体、液体用の送出吸入口などの開口や、カバーガラス等で密閉 50

された照明開口、レンズ開口などを備え、レンズ開口の後方には、結像レンズ、固体撮像素子（ＣＭＯＳイメージセンサまたはＣＣＤイメージセンサ）等を備えたＣＣＤカメラヘッドを内蔵している。なお挿入管１１の体内挿入部内には、先端部を任意の方向に向けるための湾曲機構を内蔵している。この湾曲機構は、操作部１３に設けられた湾曲操作ダイヤル（図示せず）によって所望の方向に湾曲操作される。

【０００７】

さらに操作部１３には、外部に露出した、この電子内視鏡システムが備えた機能进行操作するための複数の操作ボタン１５を備えている。本実施例では３個の操作ボタン１５ａ、１５ｂ、１５ｃを備えている。これらの各操作ボタン１５は、常開の押し釦スイッチである。操作部１３内にはスコープＣＰＵ１７を備え、このスコープＣＰＵ１７が、操作ボタン

10

１５のオン／オフ状態を定期的にチェックし、そのオン／オフ状態を示す情報をケーブル２１内の通信ケーブルを介してプロセッサ部３０に出力する。操作ボタン１５には、そのオン／オフによって動作する機能が割り当てられ、スコープボタン設定データとして不揮発性メモリであるＥＥＰＲＯＭ１９に書き込まれ、保存されている。ＥＥＰＲＯＭ１９には、このスコープ部１０を識別するデータなども書き込まれている。各操作ボタン１５に割り当てる機能の一つには画像記録に関する機能があり、画像記録機能には、静止画表示または記録、静止画印刷、ビデオ録画開始／停止などがある。

【０００８】

プロセッサ部３０には、ケーブル２１のコネクタ２１ｃが着脱自在に接続されるコネクタ３１と、コネクタ２１ｃが装着されたときに通信ケーブル２３と接続される通信ケーブル３３を備えている。通信ケーブル３３は、メインＣＰＵ３５に接続されている。つまり、コネクタ２１ｃがコネクタ３１に接続されると、スコープＣＰＵ１７とメインＣＰＵ３５は通信ケーブル２３と通信ケーブル３３を介して接続され、双方向通信が可能になる。

20

【０００９】

プロセッサ部３０には、電子内視鏡装置に関する種々の設定を記憶するフラッシュメモリ３７と、メインＣＰＵ３５とプリンタ４３、ビデオテープレコーダ４５、光磁気ディスクドライブ４７との間のデータ入出力を仲介するＩ／Ｏ３９を備えている。さらにプロセッサ部３０には、挿入管１１、操作部１３に内蔵された撮像素子やスコープＣＰＵ１７等の動作電圧を供給する電源を備えている。

【００１０】

このシステムでは、プロセッサ部３０に接続可能な各スコープ部１０に、スコープ部１０を識別する識別データと、各スコープ部１０固有の設定データ、つまり、操作ボタンに割り当てられたボタン機能データを、スコープボタン設定データとしてＥＥＰＲＯＭ１９に保存する。そうして、プロセッサ部３０に接続されたときは、ＥＥＰＲＯＭ１９からスコープボタン設定データを読み出してプロセッサ部３０に転送する。その後、操作ボタン１５のいずれかがオン操作されたときにその操作ボタンを識別するデータをアクティブな機能データとしてプロセッサ部３０に転送する。

30

一方プロセッサ部３０は、接続されたスコープ部１０からスコープボタン設定データが転送されると、フラッシュメモリ３７に保存し、テレビモニタ４９に表示する。その後スコープ部１０から操作された操作ボタン１５に応じた機能データが転送されると、その機能データに対応する動作制御を実行する。

40

【００１１】

またプロセッサ部３０は、入力手段であるキーボード４１を介して、接続されているスコープ部１０の各操作ボタン１５に割り当てる機能を変更または選択し、変更または選択した操作ボタンに割り当てた機能を、スコープデータ設定データとしてスコープＣＰＵ１７に転送し、ＥＥＰＲＯＭ１９に保存させる機能を有する。

【００１２】

本実施形態では、スコープ部１０の操作ボタン１５に割り当てた機能を、スコープ部１０のＥＥＰＲＯＭ１９、プロセッサ部３０のフラッシュメモリ３７または光磁気ディスクドライブ４７に保存することができる。二つ以上の媒体に保存してある場合は、所定の優先

50

順位で有効とする。例えばEEPROM19、フラッシュメモリ37、光磁気ディスクドライブ47の順で有効とする。

【0013】

スコープCPU17の処理およびメインCPU35の処理を、さらに図2乃至図6に示したフローチャートを参照して説明する。

まず、メインCPU35の処理を図2を参照して説明する。このフローチャートには、プロセッサ部30の電源がオンされ、通信ケーブル33に通信ケーブル23が装着されたときに入る。

メインCPU35は、まず、スコープが接続されているかどうかの検出処理を実行し(S101)、スコープのCPUに対する通信モードの設定処理を実行する(S103)。これらの処理により、接続されたスコープがスコープ部10の場合は、スコープCPU17から、識別データ、スコープボタン割り当て対応かどうかのステータスデータ等を入力する。

10

【0014】

次に、入力したデータからボタン割り当て対応スコープかどうかをチェックし(S105)、対応スコープであった場合は(S105; Y)、スコープボタン設定データの転送をスコープ部に要求してスコープ部からデータを受信し(S107、S109)、受信したスコープボタン設定データに基づいて、ボタンデータ対応プロセッサ動作を確定し(S111)、設定したスコープボタン対応機能をテレビモニタ49に表示する(S117)。ここでボタンデータ対応プロセッサ動作とは、スコープ部10から操作ボタン15がオンした旨のデータを受信したときに、その操作ボタンに割り当てられた機能に基づいた動作のことである。

20

スコープボタン設定データとは、各操作ボタンおよび割り当てた機能に関するデータである。

【0015】

ボタン割り当て対応でなかった場合は(S105; N)、ボタン割り当て未対応スコープとして未対応スコープ用のボタンデータに基づいてプロセッサ動作を設定し(S113、S115)、設定したスコープボタン対応機能をテレビモニタ49に表示する(S117)。

なお、この実施形態は、未対応スコープの機種に応じたデフォルトのスコープボタン設定データが予めフラッシュメモリ37に書き込まれていて、メインCPU35は、未対応スコープの場合はフラッシュメモリ37からこのデータを読み込んで設定する。

30

【0016】

スコープボタン設定データに基づくプロセッサ動作の設定およびその表示処理が終了したら、操作ボタン操作待ち処理に入る(S119)。操作ボタン操作待ち処理は、スコープ部10のいずれかの操作ボタン15がオン操作されるのを待つ処理である。いずれかの操作ボタン15の操作信号を受信したら、レジスタに保存した対応する操作ボタンの機能データを読み出して確認する(S121)。対応する操作ボタンの機能データが無い場合はS119に戻り(S123; N、S119)、対応する操作ボタンの機能データが有る場合は処理2のS125に進む(S123; Y、S125)。

40

【0017】

処理2は、操作された操作ボタン15に対応する機能の動作を制御する処理である。まず、レジスタを確認、つまりレジスタ内の操作ボタン対応機能データを読み出し(S125)、読み出したデータを確認して下位2バイトのデータを抽出する(S127)。

本実施形態では、レジスタには3バイト以上のデータが書き込まれる構成であって、下位2バイトに操作ボタンに対応した機能データが書き込まれている。処理対応データの比較を実行して処理を確定する(S129、S131)。そうして、確定した処理に基づいてその処理を実行してS119に戻る(S133、S119)。つまり、操作された操作ボタン15に割り当てられていた機能を制御または実行するのである。なお、処理対応データが存在しなかったときはなにもせずにS119に進む。

50

以上の S 1 1 9 ~ S 1 3 3 の処理を、スコープ部 1 0 が接続され、電源がオンされている間繰り返す。

【 0 0 1 8 】

次に、スコープ C P U 1 7 の処理について、図 4 を参照して説明する。この処理には、スコープ部 1 0 がプロセッサに接続されたときに入るが、本実施の形態ではプロセッサ部 3 0 に装着された場合について説明する。

この処理に入るとスコープ C P U 1 7 は、先ず入出力ポート、R A M、レジスタなどを初期化し、プロセッサ部 3 0 にスコープ認識データを送信する (S 2 0 1、S 2 0 3)。そして、メイン C P U 3 5 との間で通信モードを設定し、E E P R O M 1 9 から読み出したスコープ識別データ、スコープボタン設定データを送信し、またメイン C P U 3 5 からデータ変更要求コマンドなどを入力する (S 2 0 5)。データ変更要求コマンドは、スコープボタン設定データの更新要求である。

10

【 0 0 1 9 】

そして、受信データ中にデータ変更要求コマンドがあったかどうかをチェックする (S 2 0 7)。

データ変更要求コマンドがあった場合は (S 2 0 7 ; Y)、そのコマンドに応じてスコープボタンの設定処理に入り、メイン C P U 3 5 から操作ボタンに割り当てられた機能に関するデータを入力し、その操作ボタンに対応する機能をスコープ設定データとして E E P R O M 1 9 に書き込む処理 (ボタン対応機能データ設定処理) を実行する (S 2 0 9、S 2 1 1、S 2 1 3)。

20

データ変更要求コマンドが無かった場合は (S 2 0 7 ; N)、各操作ボタン 1 5 の状態 (ボタン状態) を確認 (オン / オフ状態の入力) し (S 2 1 5)、いずれかの操作ボタン 1 5 がオン操作されるのをボタン状態確認処理を繰り返して待つ (S 2 1 7 ; N、S 2 1 5)。

【 0 0 2 0 】

いずれかの操作ボタン 1 5 がオン操作されたら (S 2 1 7 ; Y)、オン操作された操作ボタン 1 5 に対応するボタンデータをボタン設定データから選択してメイン C P U 3 5 に転送し、メイン C P U 3 5 から転送確認データを受信したら送信処理終了処理を実行して S 2 1 5 に戻る (S 2 1 9、S 2 2 1、S 2 2 3)。

以後、S 2 1 5 ~ S 2 2 3 の処理を繰り返す。この繰り返し状態が、通常の使用状態である。

30

【 0 0 2 1 】

次に、キーボード 4 1 によりスコープボタンに割り当てる機能の変更処理を含む、キーボード入力処理について、図 5 を参照して説明する。この処理は、プロセッサ部 3 0 の電源オン状態で、メイン C P U 3 5 が間欠的にキーボード 4 1 と通信して受信したスイッチオン情報に対応する処理を実行する処理である。

【 0 0 2 2 】

まず、ボタン設定要求があるかどうかを確認する (S 3 0 1)。次に、ボタン設定画面の処理を実行し (S 3 0 3)、キーボード 4 1 からのデータ受信処理を実行し、データ変更要求の有無をチェックし、要求がなければ S 3 0 1 に戻る (S 3 0 5、S 3 0 7 ; N、S 3 0 1)。

40

データ変更要求があった場合は、データ変更要求に対応したデータをフラッシュメモリ 3 7 に保存する (S 3 0 7 ; Y、S 3 0 9)。そうして、データ変更要求に対応するスコープが装着されているかどうかを確認し (S 3 1 1)、対応するスコープが装着されていない場合は S 3 0 1 に戻る (S 3 1 1 ; N、S 3 0 1)。

【 0 0 2 3 】

対応するスコープが装着されている場合は (S 3 1 1 ; Y)、フラッシュメモリ 3 7 から識別データに対応したスコープボタン設定データを読み出し、スコープ C P U 1 7 に転送してから S 3 0 1 に戻る (S 3 1 3、S 3 0 1)。このデータ転送を受けたスコープ C P U 1 7 は、そのスコープボタン設定データを E E P R O M 1 9 に保存する。その後スコー

50

ブ C P U 1 7 は、操作ボタン 1 5 が操作される毎に、スコープボタン設定データに対応するデータをメイン C P U 3 5 に送信し、そのデータに対応する処理が存在する場合はその処理を実行する。

【 0 0 2 4 】

このように本発明の実施形態では、スコープ部 1 0 の各操作ボタン 1 5 の機能を使用者の好みに応じて変更し、その変更後の状態をスコープ部 1 0 の E E P R O M 1 9 に保存することができる。したがって、使用者は自分の好みに応じて操作ボタン 1 5 の機能を設定し保存しておけば、そのスコープ部 1 0 を再びそのプロセッサ部 3 0 または他のプロセッサ部 3 0 に接続して使用するときも、操作ボタン 1 5 はその保存した機能で動作するので、設定し直す手間が不要になる。

10

【 0 0 2 5 】

なお、図示実施の形態では、先ずスコープ部 1 0 からプロセッサ部 3 0 に各操作ボタンに割り当てた、操作ボタンによって動作制御される機能に関するデータをプロセッサ部 3 0 に出力し、その後は操作された操作ボタンに関するデータをプロセッサ部 3 0 に出力する構成としたが、スコープ部 1 0 からプロセッサ部 3 0 へは、操作ボタン 1 5 が操作される毎に、操作された操作ボタンによって動作制御される機能データをプロセッサ部 3 0 に出力する構成としてもよい。

【 0 0 2 6 】

また、本発明の実施形態では、スコープ部 1 0 の各操作ボタン 1 5 によって制御される機能を、プロセッサ部 3 0 を介して変更し、スコープ部 1 0 の E E P R O M 1 9 に保存しているが、各操作ボタン 1 5 によって制御される機能およびそのスコープを識別する識別データをプロセッサ部 3 0 の記憶手段に記憶し、装着されたスコープ部 1 0 から識別データを入力して、記憶手段に記憶した対応する操作ボタン対応機能により動作するようにしてもよい。

20

また、識別データはスコープに固有なものに加えて、使用者毎に固有な識別データを含ませれば、使用者毎に操作ボタン対応の機能を予め記憶させ、読み出して使用することができる。

【 0 0 2 7 】

【 発明の効果 】

以上の説明から明らかな通り本発明は、スコープ部とプロセッサ部とが着脱可能な電子内視鏡装置において、各操作手段の操作によって動作制御される機能を記憶する記憶手段および該記憶手段に記憶する前記各操作手段の操作によって動作制御される機能を変更する変更手段を備えたので、使用者は自分の好みに応じて操作手段の機能を設定可能になり、変更した機能が記憶手段に保存されるので、使用者は簡単に、記憶手段に記憶した機能で操作手段を動作させることができる。

30

【 図面の簡単な説明 】

【 図 1 】 本発明を適用した電子内視鏡システムの実施形態の主要部をブロックで示す図である。

【 図 2 】 同電子内視鏡システムのプロセッサ部の主要動作の示すフローチャートの前半の図である。

40

【 図 3 】 同電子内視鏡システムのプロセッサ部の主要動作の後半部を示すフローチャートの後半の図である。

【 図 4 】 同電子内視鏡システムのスコープ部の主要動作を示すフローチャート図である。

【 図 5 】 同電子内視鏡システムのプロセッサ部のキーボード入力動作を示すフローチャート図である。

【 符号の説明 】

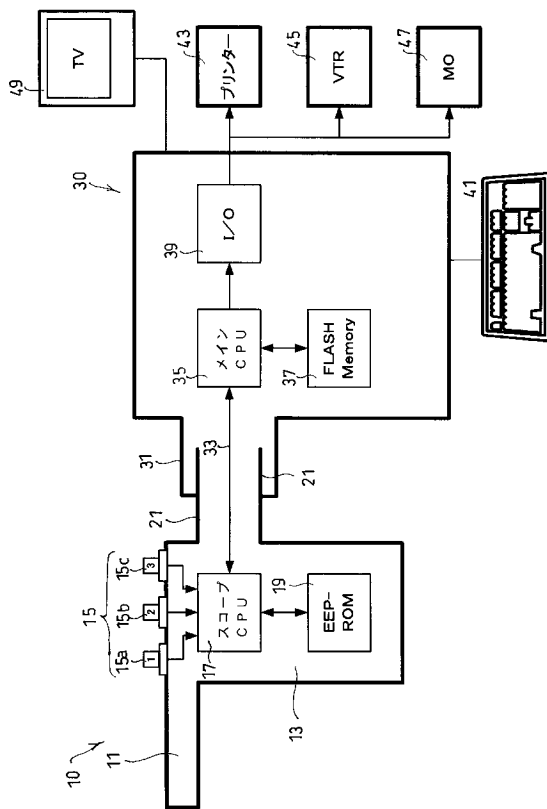
- 1 0 スコープ部
- 1 1 挿入管
- 1 3 操作部
- 1 5 操作ボタン

50

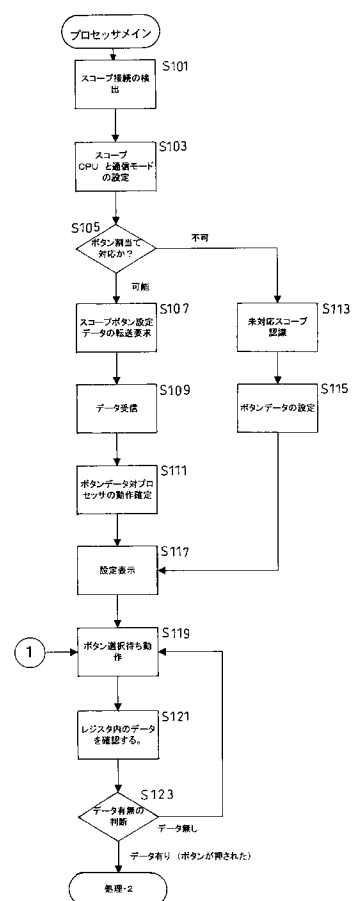
- 15 a 15 b 15 c 操作ボタン
 17 スコープCPU
 19 EEPROM
 21 ケーブル
 21 c コネクタ
 23 通信ケーブル
 30 プロセッサ部
 31 コネクタ
 33 通信ケーブル
 35 メインCPU
 37 フラッシュメモリ
 39 I/O
 41 キーボード
 43 プリンタ
 45 ビデオテープレコーダ
 47 光磁気ディスクドライブ
 49 テレビモニタ

10

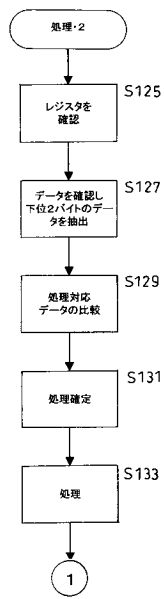
【図1】



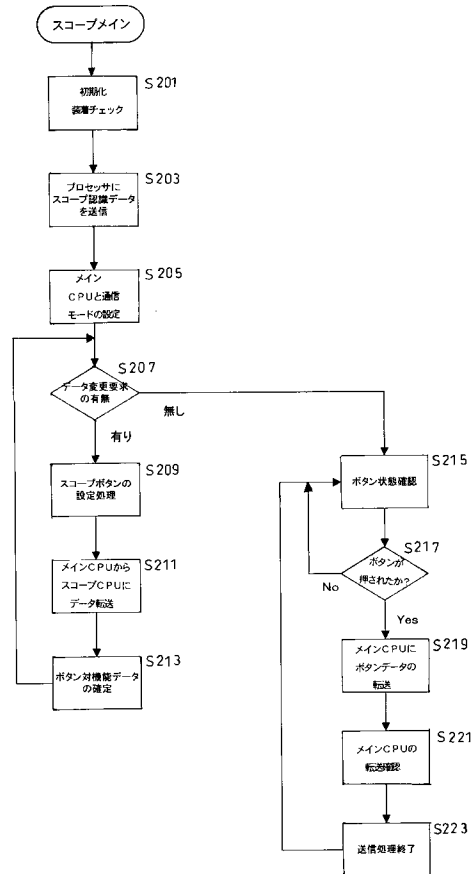
【図2】



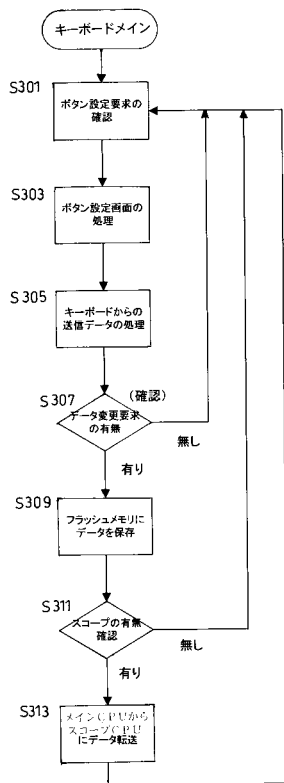
【図3】



【図4】



【図5】



フロントページの続き

Fターム(参考) 4C061 CC06 DD03 FF12 JJ18 LL02 NN05 NN07 WW01 YY02 YY03
YY12 YY14 YY18

专利名称(译)	电子内视镜装置		
公开(公告)号	JP2004065832A	公开(公告)日	2004-03-04
申请号	JP2002232812	申请日	2002-08-09
[标]申请(专利权)人(译)	旭光学工业株式会社		
申请(专利权)人(译)	宾得株式会社		
[标]发明人	日比春彦 古谷勝彦 飯田 充		
发明人	日比 春彦 古谷 勝彦 飯田 充		
IPC分类号	A61B1/04		
FI分类号	A61B1/04.372 A61B1/00.640 A61B1/045.610 A61B1/05		
F-TERM分类号	4C061/CC06 4C061/DD03 4C061/FF12 4C061/JJ18 4C061/LL02 4C061/NN05 4C061/NN07 4C061/WW01 4C061/YY02 4C061/YY03 4C061/YY12 4C061/YY14 4C061/YY18 4C161/CC06 4C161/DD03 4C161/FF12 4C161/JJ18 4C161/LL02 4C161/NN05 4C161/NN07 4C161/WW01 4C161/YY02 4C161/YY03 4C161/YY12 4C161/YY14 4C161/YY18		
代理人(译)	三浦邦夫		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

[问题]提供一种电子内窥镜，其能够将期望的功能分配给操作按钮，存储所分配的功能并容易地对其进行调用。挠性插入管（11）具备镜体部（10）和以可装卸的方式与镜体部（10）连接的处理器部（30），该挠性插入管（11）与主体插入部相对。电子内窥镜装置在操作部13的侧面的端部具有多个操作按钮15a，15b，15c，通过操作各操作按钮15a，15b，15c来控制操作的功能。配有EEPROM19记忆。由操作按钮15a，15b，15c控制的功能由主CPU 35响应于键盘41的输入而改变。[选型图]图1

